

### Ⅲ ビジョン策定に向けた新たな視点と方向性

#### 1 新たな視点

本ビジョンでは、農業・農村の持続的発展に向け、農業の成長産業化を促進するための産業政策と、農村地域の活性化に向けた地域政策を車の両輪として、農業・農村の振興を図ることとし、Ⅱで分析した、いしかわの食と農業・農村の現状を踏まえ、2つの新たな視点から施策の見直し等を行い、新たな施策の方向性を検討しました。

##### (1)「作ったものを売る」から「売れるものを作る」へ…「マーケットイン」型農業への転換

北陸新幹線の金沢開業により、本県には、今まで以上に観光客が訪れるようになりました。観光客に対するアンケート調査では、多くの方が「食事」を楽しみにしており、また、飲食店を選ぶ際に「地元食材の利用」を重視しているとの結果が出ているほか、例えば、加賀野菜を「食べてみたい」とした方が9割を超えるなど、本県産の食材への期待が高まっています。

しかしながら加賀野菜を「食べたことがある」方の割合は約4割にとどまっており、消費者の「食べてみたい」というニーズに応えきれない状況となっています。

また、食生活の多様化や女性の社会進出による雇用環境の変化により、外食・中食の割合が増加する中、全国的に加工・業務需要が増加しているほか、消費者の食に対する嗜好も変化するなど、消費者のニーズは変化してきており、今後はこうした変化を的確に捉え、対応していくことが求められています。

一方、首都圏の消費者に対する調査では、約7割が、農産物を購入する際に「産地」を意識しており、また、本県産農産物に対しては「高級感がある」「美味しい」といったプラスイメージを持っています。また、食材・器・調理技術が揃った本県の「食文化の総合力」は大きな強みであり、和食の世界文化遺産登録を追い風に、国内外に発信するとともに、これらの食材の供給力を高めることが必要です。

これらを踏まえ、今後は、農業を作ったものを売る産業から、ニーズに応じた売れるものを作る「マーケットイン型」の産業に転換していく必要があります。

##### (2)「水稲単作」から「複合化・多角化経営」へ…経営の「ベストミックス」による所得の確保

米の消費減退や過剰生産により、米価は全体としては下落基調にあり、米生産者の経営を圧迫しています。都市部に先駆けて高齢化や人口減少が進行している能登地域を中心とする里山地域では傾斜地や小區画ほ場が多く、農業所得の確保が一層困難となってきています。今後の人口減少や高齢化の進展を考えれば、米以外による所得の確保を考える必要があります。

こうした中、本県では、企業等のノウハウを生かし、農業の生産性を向上させる取組みが始まっています。

一方、北陸新幹線金沢開業により本県産農畜産物の需要の増加への対応が求められ、「マーケットイン型農業への転換」を進めていく中で、本県農業が持つ「多様な品目が生産されている」「ニッチトップ」等の特長や「能登の里山里海」の世界農業遺産登録等による能登地域への関心の高さは大きな強みです。また、里山地域を中心に、ジビエや再生可能エネルギーを活用する取組みも始まっています。

今後は、これらの強みを生かし、所得が最大となるよう、企業のノウハウを取り込むとともに様々な品目の組み合わせによる「複合化」や、加工、農家民宿・レストランといった6次産業化、観光業との融合に加え、ジビエや再生可能エネルギーの利活用等からも所得を得ることによる経営の「多角化」を図る、いわば「経営のベストミックス」を、それぞれの生産者の経営の中で、あるいは産地や集落、地域全体で図っていくことが重要です。

図1 観光客が石川旅行で楽しみにしているもの

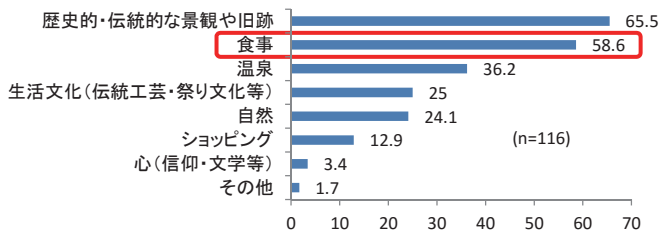


図2 観光客が飲食店や料理を選ぶ際に「地元食材」の利用を重視する割合

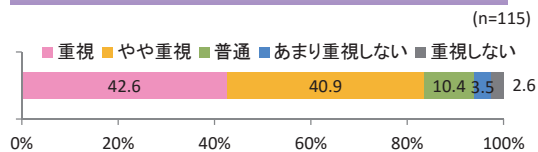
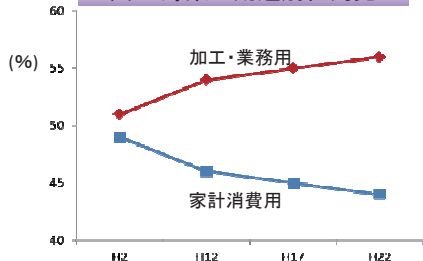


図3 野菜の用途別仕向先



資料:農林水産政策研究所

図4 農産物購入時に産地を意識するか

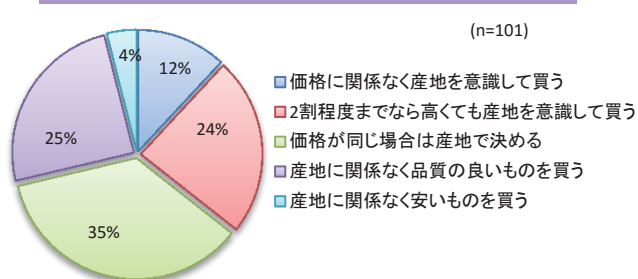


図4~5 資料:農業政策課調べ「石川県の食と農業・農村に関する首都圏意識調査」(平成27年7月実施)

図5 石川県産農畜産物のイメージ

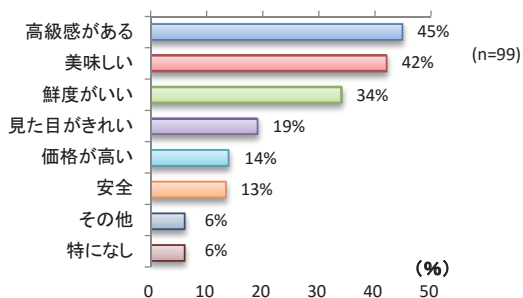


図6 マーケット・イン型農業の事例

- ◇顧客ニーズに応えた品目の展開  
営農開始時の5種類 → 現在約300種類
- ◇顧客ニーズに応えた規格ごとの売り分け  
(能登地域の生産者の事例)

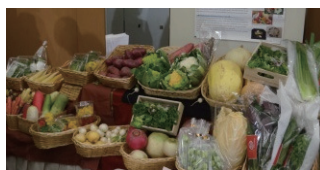


図7 経営の複合化による所得の向上(試算)

	水稲単作	水稲+花き複合経営
経営面積	水稲14ha	水稲14ha + エアリーフローラ0.1ha
粗収益	1,778万円	1,983万円
生産費	1,322万円	1,446万円
農業所得	456万円	537万円

資料:県農林水産部試算

図8 他産業との連携による収益性の向上



- ◇コマツとの連携による簡易な土地改良技術の開発
- ◇製造業のノウハウを活用した生産工程の改善 等

図9 経営のベストミックスの事例

< 経営の複合化 >

水稲+大麦+大豆  
+源助大根  
(集落営農組織や農業法人の事例)

水稲+大豆+大麦  
+ねぎ+フリージア

< 経営の多角化 >

水稲+直接販売+加工  
(農業法人の事例)

農家民宿群  
(農業体験を提供)

地域ぐるみでの  
6次産業化  
(JAの事例)